

繪ハガキ競技會記事 (第二十六回)

螢 (意匠) 涼風 (技術)

一等	光りの輪	田上 勉輔	河邊	工藤 太郎
二等	小川のふち	松浦政次郎	夕風	赤城 泰舒
三等	籠漏る光	藤田 紫舟	納涼	志賀 正人
四等	池畔	中尾 春雄	橋場の渡	山田 全一
五等	ほたる草	中尾 正幹	芦の	蔭 藤田 紫舟
六等	模様	飛鳥井 信	海邊	久保 周一
七等	川風	須藤 隆治	水邊	須藤 隆治
八等	夜の行列	工藤 太郎	樹蔭	高橋 松治
九等	捕虫器	宮澤 汀煙	小川	川 松浦政治郎
十等	螢籠	金江 龜	加茂川	川 佐藤 清
十一等	柳に	螢 高橋 松治	緑蔭	蔭 海老名研二
十二等	螢の光	高橋 直子	扇子	子 中井 栖石
十三等	團扇に	螢 樋口 絹子	河邊	後藤 曉露
十四等	草の	中 小高 露子	飛瀑	相田 寅彦
十五等	樹蔭	近江 光峯	舟の上	小島虎太郎
十六等	夏の夕	立花甚之助	海上の月	筒井角太郎
十七等	螢と書物	赤城 泰舒	鈴飯田	紫山
十八等	螢狩	石田 富藏	風電氣	扇 池田 知三
十九等	模様	池田 知三	水郷	牛木 勇
二十等	螢籠	島田 晚韻	夕涼	鈴木 昇

(以下略)

七月二十二日開會、出品者五十六人、二百六枚、選評の結果上記の如し。

螢の光りは波状をなし、其色藍を帯びたる黄にして寒色なり、意匠の一等は、よく其自然を捉へ、圖様も新しかりしが、他は殆ど同一型に、暖かき黄なる光に、圓き珠を尻に添えたるもの多かりしは、研究の不充分なるを證すべきなり。技術の部は、意匠に比して見るべきもの少なかりし、技術は、一層素養を要す、諸子は此方面に、向つて奮勵せられたし。

猶當日は、日本橋なる水彩畫講習所樓上に於て開會、成績品の陳列互評等あり、終つて二三の餘興を催し、薄暮楽しく散會したり。

九月課題

意匠 氣拔(キバツ)

技術 初秋

九月二十日締切全二十三日午後二時より日本橋區本石町十軒店三、門井學校内に開會

但出品畫は小石川區關口駒井町春鳥會宛に送られたし

■本號は飛驒の旅に全誌を供せしを以て一等の寫真版は次號に掲出すべし

\*

\*

\*

\*